

①ねんりんピック はばたけ鳥取2024

さいたま市選手団ユニフォームについて

10月18日から22日にかけて、鳥取県全域を会場として、第26回全国健康福祉祭とつとり大会「ねんりんピック はばたけ鳥取2024」が開催され、さいたま市からは18種目約130名の選手団が参加しました。

特に、今大会で正式競技種目となった「eスポーツ」に出場するため、世界で初めて「eスポーツによる社会貢献」「eスポーツによる高齢者福祉」を提唱した、さいたま市民シルバーeスポーツ協会チームが参加し、それを記念して鳥取市のメイン会場では「シルバーeスポーツ特設ブース」を設けて、全国から集まった選手のみなさまに、さいたま市発全国展開のシルバーeスポーツの社会的意義についてPRし、ブースには多くの方々が押し寄せ、大好評を得ていました。

その様子は、NHKさいたま放送局の同行密着取材を受け、12日の「おはよう日本」の番組の中でドキュメント特集として放送され、大きな反響をいただきました。

そこで、お伺いいたします。

①今大会に参加した「さいたま市選手団」のユニフォームは、大会会場で調査したところ、全国の参加チームのなかでただ一つの、オリジナルユニフォームでないことが判明しました。ユニフォームである上下服と帽子は市販品で、何のデザインもなく、どこのチームかわかりません。ただ、胸に別刷りの「市章シール」を各自が貼るだけのもので、他の選手のみなさんからは、どこの選手かわからないというお粗末さでした。

多くの地域の代表団は、それぞれ各地の特色を生かしたデザインのユニフォームで参加している中で、さいたま市選手団員はシールを貼っただけの市販のユニフォームという現実に、130名選手のみなさまは肩身の狭い思いをされておりました。これにより、東日本の玄関口である政令指定都市さいたま市の名誉が著しく棄損されました。

来年の岐阜県大会、再来年に迎える埼玉県大会に向けて、オールさいたまで市内のデザイナーや学生など一般市民から広くデザインを公募し、ファッションショーを開催することなども、ねんりんピック開催機運を高めることにつながり、高齢者福祉政策の一環になるかと考えます。

さいたま市のシティーセールスにも効果のある、選手が喜んで着用して頂けるような「ねんりんピックさいたま市選手団」のユニフォームデザインをどのようにするか、お考えをお聞かせください。(編集局長 水野臣次)



県民公論の質問を受けて 新ユニフォーム作成を決定！

NHK「おはよう日本」で、皆様のご活躍を視聴させて頂きました。

まず、選手団のユニフォームについてですが、各競技団体の代表者を含めて本市の実行委員会で決定しております。

今回の鳥取大会のユニフォームにつきましては、令和5年度に実行委員会において、さいたま市のロゴやヌウのデザインを入れたものを含む数種類のデザインから評決を採り、決定したものでございます。

ユニフォームの制作に当たりましては、実行委員会の予算の中で行ったものでございます。

ご指摘いただいた内容を受けまして、令和8年開催の埼玉大会に向けては、新たなユニフォームの作成を、各実行委員のご意見を尊重しながら、デザインを検討していきたいと思っております。



②ねんりんピック さいたま市・埼玉県大会での シルバーeスポーツ競技開催について

ねんりんピック鳥取大会で、初めて正式種目として採用された「eスポーツ大会」は、NHKで放送された通り、全国各地から集まったeスポーツチームの明るく活気ある熱気に包まれ、大成功となりました。

そのなかで「次はさいたま市で会おう」とのお声を多くいただき、まさにさいたま市が「シルバーeスポーツの聖地」となったような雰囲気でした。

再来年には、「eスポーツによる高齢者福祉」を提唱して、全国・全世界に共感のを広げているシルバーeスポーツ発祥の地さいたま市で、ねんりんピックが開催されます。

コムナーレ10階の浦和コミセンは、鳥取県境港市でのeスポーツ交流大会会場として使われた「みなとテラス」と設備が良く似ており、利便性が良いことなどから、シルバーeスポーツ交流大会会場として、絶好の場所です。

そこで、全国のeスポーツファンが聖地としてあこがれている、令和8年開催の「ねんりんピック埼玉県・さいたま市大会」における「シルバーeスポーツ交流大会」実施についてのお考えをお聞かせください。

昨年8月の会見では市長より「令和8年度の埼玉大会はこれまでの開催状況を踏まえ、本市として種目を回答しておりますが、今後どのように判断されるかは、埼玉県が決定することです。もし、eスポーツが競技種目に採用されない場合でも、おもてなしイベントとしての活用が考えられます。」とのお答えを頂きました。

これを踏まえて、「シルバーeスポーツ発祥の地さいたま市」として、交流大会が開かれれば、全国から注目を集め、「eスポーツの高齢者福祉活用先進都市さいたま市」として、国内外にその先進性を発信できると考えますが、市長のご見解をお聞かせください。

(編集局長 水野臣次)



県民公論の質問を受けて さいたま市としては おもてなしイベントとして シルバーeスポーツ開催検討！

2点目につきましては、埼玉大会におけるeスポーツにつきましては、埼玉県内で調整が行われまして、交流大会としてではなく、オリジナル大会として、東松山市で開催することが決定しました。

本市としましては、eスポーツについては、「おもてなしイベント」の一つとして、検討していければと思っております。

埼玉県においても各イベントを検討していると思っておりますので、埼玉県とも調整を図りながら決定していきたいと考えております。

令和6年11月21日 さいたま市役所会見場
さいたま市地方記者クラブ向け市長記者会見

